

学校名	福島市立北信中学校	校長	芳賀 沼 彰
住 所	福島市鎌田字御仮屋 2 0		
T E L	0 2 4 - 5 5 3 - 5 0 4 9	U R L	https://fukushima.fcs.ed.jp/北信中学校



取組の概要

本校では、平成29年度から不登校傾向や配慮を要する生徒に寄り添った支援をするために、普通教室とは別に「ふれあい学習室」を開設し、平成31年度からは県教育委員会よりSSR開設校の指定を受けている。現在は、自己肯定感や自尊感情といった「非認知能力」を高めるための学習活動を推進している。また、個に応じた学習の機会を保障するためにタブレットや遠隔学習システムの利用などICTも効果的に活用して支援をしている。本学習室は、本校にとって希望の光であり、全ての生徒が『北信中でよかった!』と実感できる学校にするためになくてはならない存在である。

内 容

1 安心して登校できる「心の居場所」づくり

登校する生徒の動線等を考慮して、通常の昇降口とは別の入り口を設けている。また、学習室のガラスを不透明にすることやレースのカーテンを使用することで、周囲の視線を気にすることなく安心して生活できるよう配慮している。机の配置は普通教室とは異なり、アイランド型を基本としている。この配置により、①ゆったりと学習に取り組める②分からないところを教員と一緒に学習できる③他の生徒と一緒に学習する中で、学び合ったりコミュニケーションをとったりできる等の効果が生まれている。特に、③は友達と会話をすることによって、良好な人間関係の再構築にもつながっている。

2 「非認知能力」を高めるための体験的な学習活動の推進

- (1) 技術科教員や技能主事の支援による花壇や野菜畑での体験的な活動
- (2) 校外の果樹栽培農家訪問による桃の収穫作業体験
- (3) 学習ボランティアによる手芸体験、絵画や彫刻の作品制作
- (4) 図書コーナー（書籍、新聞、進路資料等）による読書活動や自己啓発
- (5) 生活のリフレクション（1日の振り返り）の継続



3 「個に応じた学習」の機会を保障

- (1) 自己選択型時間割表による自己学習スケジュールの作成
- (2) SSR専任、学力向上支援教員、ALTを中心とした個別授業の推進
- (3) 生徒支援教員と学習ボランティアによるきめ細かい個別支援
- (4) 学校図書館司書教諭による図書館での読書活動の推進と調べ学習
- (5) タブレットや遠隔学習システムなどICTを効果的に活用した学び



4 開かれたふれあい学習室経営と教育相談の場としての活用

- (1) より多くの教師や生徒が関わりをもちやすい風通しの良い学習室へ
- (2) 不登校生徒のみならず配慮を要する全ての生徒の教育相談の場へ
- (3) ふれあい学習室への登校生徒の授業参観や保護者懇親会の実施へ
- (4) HPによる取組の積極的な情報発信と自由な学習室見学や参観の推進



ふれあい学習室での生活のリフレクション（1日の振り返り）から

- (1) 校長先生に自己選択の時間割のつくり方を教えてもらってうれしかった。明日からがんばりたい。
- (2) 今日は副校長先生と一緒にタブレットを使った。学びポケットは自分で楽しく学習できる。
- (3) 野菜畑で育ったかわれ大根を収穫して、みそ汁をつくった。とてもおいしかった。
- (4) 数学支援員の先生の授業がとてもいいので分かりやすい。問題も解けるようになってきた。
- (5) ALTの先生と地球儀や写真を使ってコミュニケーションをとることができた。
- (6) 8月に入り今日も暑い1日だった。果樹園で初めて桃を収穫した。真っ赤でとても甘い桃だった。

作 成

西暦2020年8月25日